

牛石 うし いし — 川尻 —

その昔、川尻がくしゅうじの興王寺に、牛石、虎石、猿石の名石があり、村人たちの間でたいへんな評判になっていました。

ある日、伊勢国司北畠具教が、
「わしのやかた（一志郡美杉村）へこの名石を持っていきたい。」
と言い出しました。

さっそく家来は船で運ぼうとしましたが、虎石、猿石は運べても、牛石はなんとも重くて運ぶことができません。

「このままでは船も沈んでしまう。」

と牛石だけは浜へ捨てていくことになりました。

さて、捨てられた牛石、波に打たれているのを村の文平ぶんぺいさんが見つけました。

「牛石じゃ こんなところに捨ててあったのでは、ばちがあたる。」

と思った文平さんは、村の人達に話し、皆で家まで運ぶことになりました。





そして
「牛神じゃ 高座^{こうざ}にあげよう。」
と言って祀^{まつ}りました。

ところがそれからどうした訳か、村の牛がつぎからつぎへと死んだのです。

「どうしたもんださ。」

「悪い病気かのう。」

村人たちは百姓をするにもこまっしまいました。

そんなある夜、文平さんが夢をみました。

「わしゃー牛神さまじゃとみんなが高座で祀ってくれるんはうれしいが、わしゃー牛じゃ、下座の方が寝ごちがええがの一。」
という牛神のおつげがありました。

文平さんは成る程と気がつき牛石を下座に置いて祀りました。
すると牛の病気はすっかりなくなり、川尻の牛は元気に育ったということです。

少しまえまでは、毎年八月二十八日には、牛石に御神酒をあげて祀った行事も、農業の近代化で牛が絶えてからは、消えてしまいました。



牛石は、現在川尻自治会の
成就院^{じょうじゅいん}の敷地にあります。

キーワード：みんわ、川尻、牛石

このお話は、昭和56年に発行された書籍『明和のみなわ』（野田那智子さん編著）をもとにし、登場する人物・建物・その他の名称・読み方などは、原文をしょうしています。